

第1学年 社会科学習指導案

| | | |
|--------|--|--|
| 単元 | 「古代国家のあゆみ」（日本書籍新社 P.40 - P.46） | |
| 目標 | <p>○日本の古代までの特色やその歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、文化遺産を尊重しようとする。 【社会的事象への関心・意欲・態度】</p> <p>○律令国家の確立に至るまでの過程などをふまえ、時代の特色について多面的・多角的に考察し、その過程や結果をまとめている。 【社会的な思考・判断】</p> <p>○日本の古代国家のあゆみに関する資料を収集し、適切に選択して活用するとともに、追究して考察した結果をまとめたり、説明したりしている。 【資料活用の技能・表現】</p> <p>○大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族の政治が展開したことを理解し、その知識を身につけている。 【社会的事象についての知識・理解】</p> | |
| 指導計画 | <p>第一次 蘇我氏と厩戸皇子が政治をおこなう 2時間</p> <p>第1時 蘇我氏と厩戸皇子【知識・理解】</p> <p>第2時 飛鳥文化～仏教の伝来～【技能・表現】</p> <p>第二次 律令国家が成立する 2時間</p> <p>第1時 大化の改新【関心・意欲・態度】</p> <p>第2時 壬申の乱と律令国家の成立【知識・理解】</p> <p>第三次 奈良に都を移す【知識・理解】 1時間</p> <p>第四次 京都に都を移す【知識・理解】 1時間</p> <p>第五次 古代までの日本【思考・判断】 (本時)</p> | |
| 指導上の立場 | <p>○単元について</p> <p>本単元では、6世紀から9世紀ごろまでの歴史を扱い、わが国の古代までの特色を、世界の動きとの関連に着目して学習させる。年表や文献史料、地図や系図、写真、神話、その他美術作品などさまざまな資料を教材化し、活用することを通して、我が国の古代国家の成り立ちを多面的・多角的に考察する。大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら律令国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族を中心とする政治が展開したことを自分たちの言葉で表現させる活動につなげていきたい。その際、東アジア（特に朝鮮半島）と日本国内の情勢に注目する必要がある。6世紀になると、朝鮮半島では新羅が勢力を強め、百済や任那を攻撃するようになる。朝鮮半島情勢はやがて、白村江の戦いなど我が国にも大きな影響を及ぼす。このような視点に立ったとき初めて、天皇を中心とする強力な中央集権国家を急速に作りあげていくことが必要であった我が国の歴史的状況を理解できる。</p> <p>また、大規模な平城京の造営は、莫大な費用と民衆の労力に頼っており、この実現は、律令による支配体制が確立し、天皇の支配が全国に広がっていくことを示す事例であり、平城京の復元図や地図、民衆の生活の史料を活用して、天皇の権力が全国に広がっていく様子を捉えさせたい。一方で、奈良時代の後半には天皇の後継ぎをめぐる争いや仏教勢力が台頭（道鏡事件）するようになり、律令国家の衰退の兆しが現れはじめる。これを打開し、天皇を中心とする政治を再興するために、桓武天皇が平安京への遷都を行った。平城京図と平安京図の比較や、桓武天皇の諸政策と関連させて遷都の目的を推測させたい。最後に、これらの学習を通して、古代までの日本のさまざまな歴史的事象を多面的・多角的に考察し、まとめてきた結論を活用して、これまでの日本の歴史を大観し、生徒自らの言葉で時代の特色を表現することができると考える。</p> <p>○生徒の実態</p> <p style="text-align: center;">削除しています。</p> | |

○本単元で工夫する点や手立て

本校では、1・2年生の前半が地理的分野、後半が歴史的分野で社会科授業を行っている。したがって、1年生の11月には、歴史的分野の「古代」を取り扱う予定となっている。

平成20年版中学校学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえて、本単元「古代国家のあゆみ」では、6世紀末から9世紀ごろまでの象徴的な歴史的事象に注目させ、これらの歴史的事象を考察し、導き出した結論をノートやワークシートにまとめさせておき、それを基に時代を大観し表現させたい。なお、本単元の前に同じく「古代までの日本」の学習として、「世界の古代文明や宗教のおこり」「大和朝廷による統一と東アジアとのかかわり」について学習しており、本単元と同様に既習事項を活用して「古代までの日本」がどのような時代だったのかを大観し、言語活動によって表現する場面を設けた。中学校での歴史学習を初めて行う1年生では、「古代までの日本」をいきなりひとまとめに大観することは難解であるため、大項目をいくつかに分けて大観する方法をとった。

事前に実施したアンケート調査によると、社会科に苦手意識を持つ生徒の理由として、「社会科（歴史）は覚えることが多いから」「時代がごちゃごちゃして、覚えられないから」といったものが多く見られた。これは、新学習指導要領解説で指摘されている、「歴史の学習は、ややもすると個別事象の並列的な提示と記憶に傾いて、ひとまとまりの学習内容の焦点がつかみにくくなりがちである。」という従来の課題を端的に示している。今日、社会科教育の課題として、知識・理解が多くの事象を個別に覚えるという学習になりがちであったことを反省し、各時代の特色などひとまとまりの学習内容の焦点や脈絡が分かる学習にそのスタイルを転換させなければならない。そのことが、社会科学習（歴史学習）への苦手意識の克服につながると考えている。

また、本単元では地図や年表、写真などの資料（史料）を活用したり、調べたこと話し合ったことを手がかりとして、歴史的事象の因果関係や時代の特色を考えさせる活動を重視している。生徒が自ら考え、互いの学び合いを通して、さらに自らの考えを高められるような学習を構成したい。そのためには、生徒の関心・意欲を高められるような教材開発や、視聴覚教材などを十分活用し、歴史的事象をイメージとして捉えやすくする工夫が必要である。また、生徒の言語活動による表現をより効果的に伝える工夫をすることで、生徒の表現活動が他の生徒の思考や判断を豊かにできるような学習環境づくりが重要である。本単元では、以上の点にも留意して授業を構成していきたい。

○研究主題との関連

本校では、「思考力・表現力の向上」を研究主題の柱に据えている。本単元の授業では社会科教育がかかえる「多くの事象を個別に『覚える』」いう従来多く見られた課題を脱出し、思考力、判断力、表現力をいかに高めて、「各時代の特色などひとまとまりの学習内容の焦点や脈絡が『分かる』学習」にしていくかということに焦点をあてた。「言語活動」を充実させ、様々な歴史的事象を他の時代の歴史的事象に当てはめたり、比較したりすることを通して社会的な見方や考え方を高めていくことを目指している。このことは、本校の研究主題の柱である「思考力・表現力の向上」に関連するものと考えている。

○授業のポイント

既習事項は生徒の必要に応じて、想起しやすいものになっていたか。既習事項を活用して時代の特色をまとめようとする手だては有効であったか。時代の特色が自分の言葉でまとめられていたか。（※このポイントに対応する授業場面は、本時案の下線部。）

本 時 案 (第五次)

| | |
|------------|---|
| 学 習 目 標 | ○前時までの学習のまとめ（ノート，ワークシート）を活用し，古代までの日本を大観して，天皇や貴族を中心とする政治が展開したこと，朝鮮半島を中心とする東アジアの情勢が日本の国家体制の整備に大きな影響を与えたことを，自分たちの言葉で表現することができる。 【社会的な思考・判断】 |
|------------|---|

| 主 な 発 問 | 予 想 さ れ る 反 応 ・ 活 動 | 教 師 の 支 援 | 評 価 |
|---|--|--|---|
| 1 「古代までの日本」 （飛鳥～平安時代初期）はどのような時代だったのか。 | ○既習事項を，授業ノートや教科書で確認する。 | ○既習事項をスライドで簡単に振り返り，本時の目標を提示する。 ◆プロジェクタ使用 | |
| <p><本時の目標> 古代までの日本（飛鳥・平安時代初期）はどんな時代だったか説明しよう。</p> | | | |
| 2 「古代までの日本」 を説明するキーワードは何か。 | ○これまでの授業ノートのまとめやワークシートを見て，「古代までの日本」がどんな時代だったか考え，ワークシートにキーワードを挙げていく。 | ○ワークシートにしたがって，因果関係を基に既習事項や年表から抜き出し，考えさせるようにする。 ○「なぜ国家体制づくりを急いだのか」「支配を強めた人たちは誰だったのか」などを問いかけ，背景や政治の中心について意識させる。 | |
| 3 「古代までの日本」 はどのような時代 だったか説明して みよう。 | ○キーワードをつないで，時代の特徴を記述していく。 ・天皇を中心とする国家づくりを目指した時代。 ・渡来人や遣隋使の役割が重要だった時代。 ・朝鮮半島で新羅が強くなり，国づくりを急ぐ必要があった時代。 ・天皇中心の国づくりに成功し，民衆を支配して，平城京や平安京を作った時代。 | ○キーワードを基にして，時代の特徴を説明していくことを意識させる。 ○東アジアとの関係，我が国の立場などのキーワードにも意識を向け，天皇や貴族中心という特色のみにとどまらないように配慮する。 | ○既習事項を基にして考え，「古代までの日本」がどのような時代であったのかまとめることができる。 【思考・判断】 <ワークシートによる評価> A：既習事項を基にして考え，「古代までの日本」が東アジア情勢を受けて，天皇や貴族を中心とする国家を作ることが説明できている。 B：既習事項を基にして考え，国内の事象のみを用いて「古代までの日本」が天皇や貴族を中心とする国家を作ることが説明できている。 |
| 4 「古代までの日本」 をどのように説明 したか，グループ 内で交流しよう。 | ○自分がまとめた「古代までの日本」を，グループ内で発表していく。 | ○東アジアの情勢の影響などについて触れているものを紹介する。 ◆教材提示装置使用 ○本時は半分のグループの説明を紹介し，次時に発表するグループの参考になるよう配慮する。 ○紹介した文章からポイントになる部分を簡潔にまとめる。十分説明できていないと思う生徒には，赤ペンでメモを取らせ，時代のまとめを再度考えさせる。 ○次回，残りのグループの発表と平安時代の後半について学習することを伝える。 | |